

易きに流さ 頑張る

れた30年を反省し 国民性を取り戻そう

伊藤 澄夫

伊藤製作所会長
中京大学特別栄誉客員教授

がある。その一方、物欲がなく、できる範囲で物事を楽しみ、無謀な挑戦をしない特性も持っている。不安定な経済が定着してきたこのころ、ブランド品ではなくコストパフォーマンスの良い製品を選ぶ傾向が増えた。社会に出ても他者と比較したり競争したりする場面が少なく、仲間同士の競争も薄らぎ、その結果、会社で上司に注意を受けた際、ひどく傷ついたり、強いストレスを感じる世代となった。

また19年4月には「働き方改革関連法」が順次施行された。その柱は残業時間の規制だ。数年前、国家を強くすることを掲げ、外交面では大きな成果を上げていた安倍元総理が、働き方改革を支持している報道を聞き、耳を疑った。このまま政治の正しい指導力が無ければ世界で20番どころか、50番となっても不思議でない状況だ。

20世紀の終盤、あれほど強かった日本経済が年々停滞し、各国から同情や心配の声が寄せられる。国内で資源が豊富に採掘でき、特許料や海外からの送金が膨大で財

1980年から15年間、日本は世界で最も勢いのある国家だった。魅力的な工業製品が次々とリリーフされ、世界の多くのユーザーから支持されていた。日本には膨大なドルが集まり、米国の有名なビルなどを買い占め、国内でも財テク投資が頻繁に行われていた。後にエズラ・ヴォーゲルが出版した著書には「日本の勢いは21世紀も止まらない」とまで言わせた。

景気の良かったそのころ、ゴルフ場の会員権や、行き過ぎと思われるような土地の購入、株式にも大きな資金が流れた。バブルが崩壊したのは、そうした行き過ぎた投資によるものだった。

投資と言えば筆者は先代から、「銀行から金を借りてまで業務に関係の無い投資をしてはいけない。事業家は楽に利益を出すうま味を経験するな。利益は本業で出すことが大切」と言われた。この教えのおかげで弊社はバブルの崩壊時に悪影響を受けずに済んだ。

当時、私は社会に出て20年くらいで、幅広く業務をこなし、働くことが楽しい時代だった。私だけ

政が黒字で安定しているならともかく、年々財政赤字は積み重なっているのが現状だ。加えて新型コロナウイルスやウクライナの影響で、輸入する燃料や食料は高騰、貿易赤字はかつてない巨額となっている。

真の強さを作るために

しかし、多くの外国が認めているように、日本人は堅実、まじめで民度が高く、モノづくりでは世界のトップクラスと言わしめてきた。誰よりも努力することで、どの国にも負けない素質を持つのが日本人であると確信している。

WBCで大谷翔平選手を筆頭に日本チームは優勝を果たした。彼らの日々の努力は1ヵ月100時間程度の残業をするくらいの努力どころではあるまい。彼らのように努力を積み重ね、成功すれば数億円、数十億円の年収が得られるのだ。ゆとり教育をスポーツの世界に取り入れたら、オリンピックで1個のメダルも取れないだろう。

20世紀末、死に物狂いで働いたわれわれの世代は、経済で世界の頂点に立てた。アジアでは唯一、

でなく、昨今のように残業を強いられると言うより、仕事が面白いと考える者が多かったようだ。その上、残業後麻雀や飲み会、ゴルフの練習など遊びが大流行で、現在と違い家庭に迷惑をかける者が多かった。娯楽の場で仕事の話をすることも多く、営業につながる事例も頻繁にあった。

一人当たりのGDP世界一が何年も続き、私も周囲の皆も、日本が衰退することなど微塵も考えていなかった。

繁栄が衰退への引き金に

だが米国は、たとえ同盟国であろうと自国より経済力や技術力が上回ることを許さない国だ。スパイ301条は、不正な取引慣行に対して多くの制裁を定めた通商法だ。目を付けられた日本は制裁を掛けられた上、1985年のプラザ合意で大幅な円高を仕向けられた。そうして半導体などの重要工業製品を韓国や台湾にシフトするよう仕向けられたことと、強くなった日本の自動車産業が米国で生産するよう仕向けられたこ

いとう・すみお

1965年立命館大学経営学部を卒業後、伊藤製作所に入社。1986年同社代表取締役となり2022年12月同社会長に就任する。順送り金型メーカーの老舗企業であり、国際競争力のある金型製造技術の確立に努め、無人化、高速化、精密化を追求したプレス加工で卓越した技術力を誇る。(社)日本金型工業会・副会長・国際委員長を歴任。中京大学特別栄誉客員教授、国立ソウル科学技術大学校名譽教授、神戸大学非常勤講師などを務めて後進の育成に寄与。2017年4月「旭日単光章」、21年1月「紺綬褒章」受章。著書に『モノづくりこそニッポンの砦』『ニッポンのスゴい親父力経営』『日本製造業の後退は天下の一大事』がある。



毎年のようにノーベル賞を取得できる日本人よ、今こそ過去のような精神力で日本を立て直すようではないか。

そして今一度、当局や政治家には、長年停滞している日本の状況に危機感を持っていただき、真の発展や強さが何であるかを顧みて、良き指導をお願いしたい。

となりで、日本の衰退が始まった。あれから30年。現在は無風地帯のように静かに時が流れている。現在では残念ながら一人当たりのGDPが世界で20番以下となっている。89年、世界時価総額ランキングでは、トップ50社に日本は32社存在したが、2023年には1社も入っていないありさま。モノづくりの世界で活動するわれわれには信じ難い状況となっている。

日本が得意としていた多くの工業製品は、いまや中国や韓国、台湾や周辺諸国にシフトされている。この流れを断ち切れず、その上、少子化が続くようでは、貧困国となる日は近いだろう。

厳しさと忌避の風潮

87年以降に生まれた世代が教育を受ける2002年よりゆとり教育が始まった。それまで続いてきた詰め込み教育や暗記に重きを置いた教育から、人間性を豊かにし、ゆとりを大切に教育が導入された。

この時代に育った世代の特徴として、想像力や独創性が高い傾向